

令和7年度 第1回 草津市健幸都市づくり推進委員会

日 時： 令和7年8月27日（水）14時00分から15時30分

場 所： 草津市役所4階 行政委員会室

出席委員： 三浦委員、藤田委員、塚口委員、矢田委員、益川委員、神田委員、御園生委員、
先川委員、中西委員、黒川委員、深見委員、白波瀬委員、望月委員、南委員、
村田委員、吉川委員、山内委員（17名出席）

欠席委員： 小沢委員、崎山委員、川上委員

事 務 局： 健康福祉部 板垣理事、宮嶋総括副部長、松尾副部長、
健康福祉政策課 中瀬課長、岡田課長補佐、河上主査、
幼児課 川那邊課長、子育て相談センター 藪田所長、
こども家庭若者課 徳地課長、人とくらしのサポートセンター中川所長補佐、保
険年金課 力石係長、健康増進課 上野係長、交通政策課 鶴房課長補佐、都市
地域戦略課 高山係長、都市計画課 三浦課長補佐

傍 聴 者： なし

次 第：

1 開会

2 委員長・副委員長の選任について

3 議事

1) 草津市健幸都市づくり基本方針に係る令和6年度の取組実績、評価
および令和7年度の取組状況について ……資料1、参考資料①～③

4 閉会

○ 委員長・副委員長の選任

草津市附属機関運営規則に基づき、委員長：三浦委員・副委員長：藤田委員が選任された。

○ 議事

- 1) 草津市健幸都市づくり基本方針に係る令和6年度の実績、評価および令和7年度の実績状況について

【事務局】

<資料1、参考資料①～③に基づき説明>

【委員長】

参考資料②に健幸都市づくり基本方針の体系図が示されており、上段が個人を対象にした内容、下段はまちを対象にした内容となっている。また、新規の事業などは資料1に示されていて、参考資料①と③はさらに詳細に事業が掲載されている。

本日は委員の皆様で意見交換をしていければと思うので、各事業に関連して、どこからでも、誰からでも良いので意見や質問をしていただきたい。

【副委員長】

基本方針の目標の一つである「健幸に暮らしていると思う市民の割合」の数値というのは、誰を対象にどういう形でデータを採って算出されているかというのを今一度教えていただきたい。

【事務局】

毎年行っている市民意識調査に基づいてこちらの数値を算出している。市民意識調査は調査対象が市民3000人で住民基本台帳の18歳以上の者から、年齢、居住区域の2段階による層化無作為抽出としている。

【副委員長】

参考資料①の1ページの「歩くこと・運動」に記載されている「健康啓発推進事業」では、「運動習慣者の増加」を目標にされているが、運動習慣というと「1日に30分以上の運動を週2回以上」が運動習慣の定義だと思うが、令和4年度が53.5%と非常に高くなっている。国民健康・栄養調査のデータだと男女平均が30%くらいなので、それに比べると運動習慣を持っている方が半分以上いるということで、これは素晴らしいと思うが、これに対して今後これより高めようというかたちなのか方針を教えてください。

【事務局】

参考資料①の中の青色で囲ってあるところに記載をさせていただいているが、滋賀県の健康・

栄養調査マップの数値を用いている。健康・栄養調査マップは、県内の各市町の市民のうち無作為で抽出された方々を対象に調査をされている。運動習慣者の増加については、国の健康日本 21 においても数値目標として用いられているところであるが、市の現状値の方が良い数値になるので、これよりもさらに増加させていくところを今後の目標に設定している。

【委員長】

草津市は他の自治体と比べて運動習慣の割合は高いという理解なのか。あるいは低くまだ不足しているという理解なのか。

【事務局】

国との比較の中では、運動習慣や身体活動といった視点の部分では、草津市の方の数値が良いという情報もあり、引き続き増加を目指していく。

【委員】

資料 1 の 1 ページの「健康に暮らしていると思う市民の割合」の最終目標が 60%で、それを前回の実績ですでに上回っているが、60%に設定された理由は何か。

また、「ウェルビーイングの指標を参考にしながら目標値の見直しを検討しています」ということだが、何年後くらいを目途に検討されているのか。2 年連続目標値を上回っているが、目標値を上げていない理由は何かあるのか。

【事務局】

平成 29 年度から令和 4 年度までを計画期間とする草津市健幸都市基本計画では、全体目標を「草津市が「健幸なまち」だと思ふ市民の割合の増加」としており、その最終目標は令和 4 年度に 60%であった。

現在の「草津市健幸都市づくり基本方針」では全体目標を「健幸に暮らしていると思う市民の割合の増加」とし、対象をまちから人に変更したが、目標数値としては草津市健幸都市基本計画の目標値 60%に未達であったことから、60%を引き継ぎ、令和 4 年度に 10 年度の目標ということで 60%に設定をしたところである。

見直しの時期については、計画のように中間見直しの年を設けていないことから、どの段階で目標値をあげるかということを含めて委員の皆様の意見を頂戴しながら、今後検討を進めていく。

【委員】

健康寿命や運動状況といった目標は、男女別または年代別に分けて設定されており、具体的な施策についても年代ごとに分けた施策が行われている中で、「健幸に暮らしていると思う市民の割合」はなぜ男女や年代毎に分けずに全体の 60%という示し方をしているのか。

【副委員長】

全体指標なので年代別に分けるよりも、一つの数値で出す方が単純に分かりやすいということだと考える。年代で分けたほうが確かに意識としてどう違うかというのは見られるが、全体の目標値が複数あると複雑になってくるので、そういう意味では分かりやすくなっていると思う。

ただこれを年代毎に分けていくやり方をする中で、何か別のものが見えるのであれば、それは意味のある数値になりえるので、個人的にはすごく面白いと思う。

【事務局】

市民意識調査においてクロス集計ができるか確認したうえで、最終目標の議論をしていただく際の参考に出せるように考えていきたい。

【委員】

このウェルビーイング指標はとても素敵だなと思った。インターネットで調べた限り、青森市や前橋市でも導入されているらしく、青森市とか前橋市では社団法人が定めた指標を活用しているということだったが、草津市も同じようにその社団法人が定めた指標というのをそのまま活用しているのか、それとも草津市独自に何かパラメータを決めて指標を設定しているのかというのを聞かせてほしい。

【委員長】

社団法人とは何でしょうか。

【委員】

青森市と前橋市が運用していたところとしては、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートというところが決めている地域幸福のウェルビーイング指標と書いてあった。

【事務局】

資料に書いているウェルビーイング指標は、デジタル庁が掲載しているものを総合計画で令和 7 年度から参考指標とするといったものである。こちらは主観指標と客観指標というものがあり、主観指標では、例えば「暮らしている地域には困ったときに相談できる人が身近にいるか」などの市民を対象としたアンケートの結果が集計されている。客観指標とは各種統計に基づくもので、こちらを総合計画には紐づけをするような形で評価に取り入れることを予定している。令和 7 年度の実績からなので今具体的に数字が出てどのような形になったかというものはお示しできない状況ではあるが、この基本方針の目標の検討にもそちらを参考にしていきたいと考えている。委員が他市の状況を調べてくださったのでそちらも併せて参考にさせていただきたい。

【委員長】

ウェルビーイングの指標と言っても色々あるので、健幸都市づくりでもデジタル庁において全市町村を比較できるようにしているこの指標を参考にするのも良いのではないかと思います。

【事務局】

補足させていただくと、健幸都市については基本計画を平成 29 年度から令和 4 年度までを計画期間として策定し、その後に、令和 5 年度から令和 14 年度までを計画期間として今の基本方針を策定した、という流れになっている。委員長もおっしゃっていたとおり、草津市の最上位の計画に総合計画があり、そちらのキャッチフレーズが「絆を紡ぐふるさと健幸創造都市くさつ」ということで、一段上で健幸都市に取り組んでいこうとなっている。また、この総合計画が第 6 次の計画で、3 期ある中の 2 期目に今年度から入っている。その中でそれぞれの施策について、デジタル庁のウェルビーイング指標を参考指標として使いながら評価をしていこうという取り組みをしているところである。

【委員】

資料 1 の 5 ページの「高齢者の生きがいづくり」というところで、高齢者の一人暮らしについては触れられていない。ところが今、一人暮らしの高齢者の方が非常に増えている。特に私が住んでいるところでは、マンション住まいの一人暮らしの高齢者が増えており、そのマンションに閉じこもってしまう方が増えてきている。その中でいかにまちづくりをしていくかというところで様々な取り組みをしているが、市としてそのあたりをとらえたかたちでの取り組みの説明をお願いしたい。

【事務局】

「高齢者の生きがいづくり」というところでは、老人クラブや地域サロンへの活動支援を行っている。具体的には、老人クラブについては老人クラブ連合会、地域サロンについては社会福祉協議会を通じて補助金の交付をさせていただいている取り組みである。おっしゃっていただいたように高齢者の一人暮らしの方は、外に出て活動するということが非常に重要になってくると考えている。これまではこちらの事業では補助金の交付が基本であったが、今年度はそこに加えて、たとえば健康マージャン教室やスマホ教室をしたり、塗り絵コンクールの台紙を配布したりというような新たな取り組みを民間企業と連携して実施するのことも、担当課である長寿いきがい課から聞き及んでいる。

【委員】

一人暮らしの高齢の方がなかなか外に出てこられないという現状があり、特に男性の参加というのが非常に少なく、何かイベントをすると 8〜9 割が女性である。その中で何か取り組みを

することによって、男性が身を置けるような何かがあればありがたいと思っている。我々が今一番苦しんでいるところである。

【委員】

14 学区ある中で老人クラブがある学区は 6 つしかない。今ある老人クラブも高齢化に伴い、役員の受け手がない等の問題で山田学区の老人クラブは今年解体されている。このようなかたちで老人クラブの運営自体がものすごく厳しくなっている。

また、市にお願いしたいのは、今スマホを持っている高齢者は多いが、実際使いこなせていない。市の情報をスマホから得るのも難しい人もいるので、使い方など教えていただければ有難いと思う。特に老人クラブに入っていない人は、情報を得るのが困難であると思うので、市としても対応が必要なのではないかと思う。

【委員】

町内会の中で地域サロンの立ち上げに協力にしている。ここに書いている実績を見ると、令和 6 年と 5 年では若干増えた程度になっているところが気になっている。

【委員】

私の地域では代表者が高齢になってきて、その方が入院されたりするとそのサロンがつぶれてしまって、参加はするが役員をするのは難しいという方が増えてきているので、なかなか地域サロンの運営が難しい。

【委員】

一人暮らしの高齢者の実態について、もう少し市も注目をしていただいた上で、健幸都市づくりの取り組みを進めてほしい。

【事務局】

スマホ教室の開催については、予定しているところである。また、委員がおっしゃったように、その情報が届いていないというところが実際あるかと思うので、広報周知を徹底していきたいと考える。

地域サロンに男性が参加することが難しいということについては、資料 1 の 6 ページに掲載している「e スポーツ・プール介護予防事業」は、特に男性が参加しやすいところを狙っている事業である。今年度は各学区のまちづくりセンターにて教室をさせていただいた。また、継続して e スポーツに触れていただけるように、ロクハ荘でも教室をしていただくとともに、毎週金曜日はどなたでも自由に使っていただける e スポーツルームを準備しているので、こちらも周知徹底していきたいと考えている。

【委員】

参考資料①の「食育推進事業」の成果指標に「野菜摂取量の増加」を掲げており、令和 17 年度に 350 g という目標に対して、現状値が令和 4 年度の数値で 244.8g となっている。最新のものが令和 4 年度だからこういう表現だと思うのだが、これは何年ごとに数値が出てくるのか。また、「健康啓発推進事業」の成果指標である「運動習慣者の増加」についても、17 年度に「増加」という目標が設定されており、現状値は令和 4 年度で 53.5%となっている。この見方が分かりにくいと思うのだが、担当課より説明をいただきたい。

【委員長】

健康増進計画の目標値だと思うが、ちなみにこの野菜 350g は国全体の目標で、健康日本 21 という国の目標で決めている数字であるが、今、日本全体でも平均 280 g ぐらいなので、70 g 足りないという数字になっている。草津市は 244 g なので、国全体の平均よりちょっと低いという数字であるが、調査は結構大変なので、そんなに頻繁にはできないものである。

【事務局】

健康・栄養マップについて毎年度公表されないのかという質問について、こちらは県で実施されている調査で、食物摂取状況等、細かな質問項目の中で調査をされるもので、概ね 5 年に一度調査を実施されており、最新のものは令和 4 年のものになる。委員長がおっしゃったように、令和 6 年度から令和 17 年度を計画期間としている「第 3 次健康くさつ 21」の中で、令和 4 年度の数値を現状値として採っており、最終年度までに国が定めるものや現状値よりも状態が良くなる姿を目指していくということで目標を設定している。

【委員】

先程の議題に少し戻るのだが、e スポーツ介護予防事業について、これは今、高齢者を対象とされているが、なぜ高齢者のみを対象にしているのかということと、それを他の世代にも幅を広げる予定はないのかということを知りたい。

私の意見としては、対象の幅を広げることで、他世代との交流が増えたり、若者が介護予防への興味関心を持つ機会になると考える。

【事務局】

e スポーツの狙いは、「脳の活性化により個々の認知機能に関する介護予防につながるというところ」と、「自宅やオンラインを通じて年代問わず、場所や場面を選ばず様々な他者との交流の機会を得ることができ、日々の生きがいにつながる」と、「e スポーツは本人がプレイヤーとして活躍できるだけでなく、みんなで人を応援するという文化を根付かせることができる」ところ、あとは「高齢者のデジタルデバイドの解消」という、大きく 4 つの狙いがあり、この事業がスタートしている。「なぜ高齢者だけなのか」という視点は大変興味深いものであり、ご意

見として預からせていただきたい。

【事務局】

ご高齢の方が地域でeスポーツに取り組み、家庭等に戻られたときに、若い世代の方と同じような話ができるということで交流が深まっているということも聞き及んでいる。

一方で、今おっしゃったように、一緒に取り組むことでまたいろんな刺激も出てくると思うので、今後この事業を進めていくうえでいろんな段階を踏んでいくと思うので、その中で今いただいたご意見を参考にさせていただきながら考えていきたい。

【委員】

健幸都市づくりの基準として市民意識調査から様々な指標を立てて実績をあげていただいているが、これはあくまでも18歳以上の大人が対象であり、こどもの声は反映されていない。国ではこどもを真ん中に据えた社会というのを推進しているが、なかなかこどもが社会の中心に据えられていない実情がある。こどもたちが家に帰ってきて「今日楽しかったわ」とか「今日先生にこんな事言われてむかついた」とか、自分の通う学校が果たして良い学校なのかどうかとか、こどもの声というのは保護者に聞き取りをする中でも大事な要素になると感じており、たちまち対象を拡大するのは難しいかもしれないが、今後、こどもたちにもフォーカスしてもらいたいと思う。

もう一点は、こどもたちの生活環境のことだが、運動したくてもできないという環境になっている。学校でも以前であればひと夏に5回も6回も水泳指導ができたのが、近年は1回できるかできないかである。中学校では部活動をするにしても、熱中症警戒アラートによって「途中でも止めて帰りましょう」というように、今はこどもたちでさえ運動できる環境にない。このあたりの要素を今後どのように実績に加味していくのかなという感想をもった。

【事務局】

こどももなかなか社会というかたちで国の方が動いており、市でもそれに向かって動いている。昨年度末にこども・若者計画が新しく策定され、その際には、中学生、高校生や、若者といわれる18～39歳の方にアンケート調査を実施させていただいているところである。こども若者部でそのような取り組みをされており、その中のアンケートで出てきたご意見等も健幸都市にはやはり関連してくることもあるので、連携をとらせていただきながら事業を進めていきたいと考えている。また、運動習慣については、日々、現場でこどもたちを見ておられるので貴重なご意見だと思っている。テレビの報道等でも、プールができないということや、プールサイドで火傷をした、というようなことを目にすることもあり、環境が急激に変わってきている状況であるかと思う。市の方でも室内でできる運動など、促し方を変えていく必要があると思う。また教育現場でどのようなご苦労があるかということも聞かせていただきながら、こどもたちの部分については考えていきたいと思う。

【委員】

私は小学生のこどもが二人おり、親としても、プールの授業が全然できないことや、休み時間も外で遊べないということ、夏休みも公園で遊ばせたいけれど公園の遊具も熱く、遊ぶ機会や場がないということを強く感じている。ある小学校ではインフロニア草津アクアティクスセンターでプールの授業をされていると聞いて、すごく羨ましく感じたので、公平にそういう機会が与えられれば嬉しいなと思う。

【委員】

健幸都市づくりは幅が広く焦点が絞りにくいと思うが、こどもに関して言うと、草津市は幸いなことに学校の体育館全てにエアコンが入っているので、それを活用して、夜間はバスケットボールをされたりしているようなので、昼間も開放していただけるとありがたいと思う。

また、こどもを増やすということを考える必要があると考える。今まで様々な補助はされているが一向にこどもの数は増えてない。このやり方が本当に正しいのかどうか疑問に思う。男女共同参画をどう考えるかにつながってくると思うのだが、専業主婦をもっと評価するべきではないかと考えている。家にいても子育てをしっかりとしている人をしっかりと評価し、それに対して何らかの補助をするべきではないかと思う。

【委員】

資料1について、各事業内容の注釈がある方が分かりやすかったと思うので、次回は改善をしていただきたい。

もう一点、資料1の1ページの参考指標のうち、「市民主役のまちづくりが進んでいると思う市民の割合」というのが、これだけが目標に達していない。こういうものは、被験者も地域によって違うため、達成しているかどうか厳密に評価することは難しいわけであるが、数値としては達成していないにも関わらず、この解釈が「未達であったものの、各地域まちづくりセンターおよび市民総合交流センターを市民主役のまちづくりの拠点として活動し、学びやにぎわいづくりを行うことができました」となっている。達成していないのにできましたというのはおかしいので、こういう場合は「何々を拠点として活用し、学びや賑わいづくりについて努めました。しかしながら、目標達成には至っておりませんので、今後何かしらの改善を行います」などと記載するべきである。数字として達成していないにも関わらず出来ていますと書いてしまったら何のための評価か分からない。「今後さらに改善する余地があります」とか、そういう締めくくりをしていただければ、皆さんがそれぞれ努力されているということも分かってもらえるし、やはり最初の目標を達成してはいなかったということも分かるので、そのあたり少し注意していただければ有難いと思う。

【委員長】

貴重なご意見だったと思う。議事は以上となるが、議事録については、事務局でとりまとめをした上で、確認を私に一任いただいてもよいか。（⇒異議なし）

今後も皆様からご意見いただきながら進めていきたいと思うので、よろしくお願いいたします。

【事務局】

委員各位におかれては、活発な議論をいただき感謝申し上げます。いただいた意見を参考に、資料の作り方等も分かりやすくなるよう努めていきたい。次回の委員会は来年の 3 月頃に開催する予定なので、改めて案内させていただく。

また、9 月 19 日の 16 時から立命館大学の BKC キャンパスで市民公開講座が開催される予定なので、ご興味があればぜひ参加いただければと思う。

3 閉会